

# ワシントン大学短期語学研修報告書

北海道教育大学旭川校  
芸術・保健体育専攻 音楽分野  
2年 布施美砂子

私は2年生の春休みに3週間、アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市での短期語学留学に参加しました。参加しようと思った理由は、高校生の時から留学への憧れがあり、海外に出ることで自分の視野をもっと広げたいと思ったからです。大学での語学プログラムやホームステイ先での様子、シアトルの街について書きたいと思います。

## (1) 大学について

まず初日にクラス分けテストがありました。翌日からクラスごとに授業が始まりました。私のクラスでは、テキストを使用した学習、様々なゲーム、映画鑑賞が中心でした。最後には、テーマをそれぞれ設定して3~4人で編成されたグループによるプレゼンテーションも行いました。私のグループは「食文化」についてのプレゼンを行うにあたり、大学内や街頭に出てインタビューしました。先生も明るくてユーモアのある方で、毎日の授業がとても楽しかったです。また、クラスには様々な大学の学生がいて、新鮮でした。

授業は午前中のみで、午後は週に2回 field trip があり、様々な観光スポットに行くことができました。その他の日は大学内を探検したり、友人と共に観光したり買い物をして楽しみました。

## (2) ホームステイ先での様子

私のホームステイ先は、フィリピン系の老夫婦のお宅でした。とても親切にしていたので、休日はショッピングモールに連れて行ってもらったり、歓迎のホームパーティーを開いたりしてくれました。朝晩の食事だけでなくランチも毎日持たせてくれて、本当にありがたかったです。お米がほぼ毎日出てきて、たまに日本食を作ったり買ってきてくれたりもしました。大学やダウンタウンへのバスでの行き方やカナダへの行き方を詳しく教えてくれたり、困っていることがあると何でも助けてくれたホストファミリーは、私にとってもはや本当の家族のような存在です。ディナーの時に、1日の出来事や日本のことについて楽しくお喋りする時間が、とても幸せな時間でした。3歳のお孫さんがよく遊びに来ていたので、姉妹のように仲良くなることができました。日本から持ってきたお土産を渡したり日本から持ってきた食材でお好み焼きを作ってあげると、とても喜んでくれました。別れの時は、本当に寂しくて、色々な思いがこみあげてきました。この3週間で素晴らしいものになったのは、ホストファミリーのおかげです。帰国してからも、メールで交流が

続いています。いつかまた会いたいなど、心の底から思います。

### (3) シアトルの街

Field trip や平日の午後を利用して、様々な場所に行くことができました。本当に毎日が刺激的でした。中でも一番思い出に残っているのは、教育大の仲間と2泊3日カナダのバンクーバーへ行ったことです。アメリカとはまた違った街並みで、文化や習慣なども違うのだなと肌で感じることができました。いつかバンクーバーに移住したい！と思えるくらい素敵な街でした。バンクーバーで出会った人々も親切な方ばかりで、ホストファミリーをはじめ教育大の仲間にも支えられ、本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。

シアトルは「雨の街」と言われるだけあって、雨がとても多かったです。あと、日が暮れてから女子が一人で出歩くのは避けた方がよいです。

### (4) これから参加される方へ

3週間という短い期間ではありましたが、自分の英語力が少しは成長したと思います。そして、行く前と行った後では、自分自身はかなり変わったと実感しています。毎日がカルチャーショックで、考え方や生き方、全てが変わりました。帰国してからも思うことがたくさんあり、また海外に行きたいと思いますし、そのためにももっと英語を勉強していきたいです。

私は途中体調を崩してしまいました。雨も多く思いのほか寒いので、体調管理には十分気を付けてください。あと、周りには日本人が多いので気が付いたら日本語に甘えてしまっている自分がいました。なので、ホストファミリーとの会話を大切にしたり、現地の学生と交流したりすることでなるべく英語に触れる機会をたくさん設けました。授業中もなるべく積極的に発言して、どんどん自分から吸収していければ良いと思います。3週間本当にあつという間なので、しっかり計画を立てながら1日1日を大切に過ごしてください。

最後に、両親、ホストファミリー、教育大の仲間、同じクラスの仲間、関わってくれた全ての人たちに、感謝です。

